東京都の犬の *Salmonella* 検索成績 (1954 年の成績)

坂 崎 利 一 波 岡 茂 郎 渡 辺 正 太

(農林省家畜衛生試験場: 場長 小林正芳)

〔受付: 4 月 6 日 1955 年〕

は し が き

先に村瀬等¹⁾は 1952 年度における東京都内の犬の *Salmonella* 検索成績について報告したが, *Salmonella* の分布には時期的な消長があるから, 逐年調査しておくことが必要なので, 再び都内の野犬について 1954 年度の *Salmonella* の分布を調査したので報告する。

検索材料及び方法

1. 検索材料

検索材料は東京都三河島中央犬抑留所で処分された野犬 210 頭の腸間膜淋巴節で 5~6 月の間に採集した。

2. 検索方法

採集後 1~2 時間以内に検査に供した。即ち各材料は表面をアルコール綿で消毒した後, スパーテルで充分焼き, 無菌的に内部の 1 片を取出して酵母ブイヨンに投じ 18 時間増菌後 Mc Conkey 寒天平板で分離培養を行った。培地上の疑わしい集落はすべて常法の如く生化学的及び血清学的性状を検査した。

成績及び考按

210 頭の腸間膜淋巴節から検出された *Salmonella* は 54 株で, 対照のため村瀬等の 1952 年度の成績と共に表に示す。即ち, 1952 年には *S. enteritidis* 及び *S. typhimurium* が高率に検出されたのに反して, 1954 年にはこれら菌型の検出頻度は低く, これに対して前回は比較的低率であつた *S. thompson* が今回では最も高い分布率を示したことは, *S. senftenberg* 及び *S. derby* が前回に比較して多数検出されたことと共に, 注目すべき点である。この傾向は大阪 (橋爪等)²⁾ 及び岩手 (加藤等) でも見られるから, かゝる *Salmonella* 分布の時期的な変動は全国的である様に思われる。なお, 比較的高率に証明された *S. give* 及び *S. newbrunswick* は, 最近浜田等 (北海道) は中難, また梁川等 (兵庫) はアヒルの爆発例からこれらの菌型を分離していることと対照して興味深い。

次に, *S. typhimurium* は大阪地方の犬では最も検出

菌 型	分 離 株 数	
	1954	1952
<i>S. stanley</i>	2	
<i>S. schwarzengrund</i>	1	
<i>S. derby</i>	9	3
<i>S. typhimurium</i>	1	6
<i>S. bredeney</i>	1	
<i>S. thompson</i>	13	2
<i>S. potsdam</i>	3	7
<i>S. nagoya</i>	3	
<i>S. enteritidis</i>	6	16
<i>S. give</i>	3	8
<i>S. amager</i>	1	
<i>S. newbrunswick</i>	2	
<i>S. senftenberg</i>	6	1
<i>S. chittagong</i>	1	
<i>S. horsham</i>	1	
<i>S. gaminara</i>	1	
<i>S. paratyphi B</i>		1
<i>S. bereilly</i>		4
<i>S. narashino</i>		1
<i>S. newington</i>		5
合 計	54	54
検 索 数	210	534
検 出 率 (%)	25	10

頻度の高い菌型であるにもかかわらず, 村瀬及び私共の成績から東京都内の犬では比較的稀であつた。なお *S. schwarzengrund*, *S. chittagang* 及び *S. horsham* は

SAKAZAKI Riichi, NAMIOKA Shigeo and WATANABE Shota: *Salmonella* isolated from dogs in Tokyo (1954). Government Experimental Station for Animal Hygiene. —Jap. J. of Bact., 10 (10), 833-834, 1955.

我が国では最初の分離例である。

今回の検出率は25%で1952年度の村瀬の調査よりも約10%高率であつた。これは *Salmonella* の時期的な変動もさることながら検索方法の差異による点が大きいと思われる。即ち、臓器からの菌検索の際、酵母ブイヨンで増菌後 Mc Conkey 寒天を用いて菌分離を行う方法は、従来の Kauffmann 培地及び SS 寒天を用うる方法よりもすぐれており、その細部については既に報告した³⁾。

む す び

1. 東京都内の野犬210頭の腸間膜淋巴節について *Salmonella* の検索を行い、54株(検出率25%)を分離した。

2. 分離菌54株中、*S. thompson* は13株で最も多く

その他、*S. derby* 9株、*S. enteritidis* 及び *S. senftenberg* 各9株、*S. potsdam*, *S. nagoya* 及び *S. give* 各3株、*S. stanley* 及び *S. newbrunswick* 各2株、*S. schwarzengrund*, *S. typhimurium*, *S. bredeney*, *S. amager*, *S. chittagong*, *S. horsham* 及び *S. gaminara* 各1株ずつであつた。

文 献

- 1) 村瀬信雄, 渡辺正太, 波岡茂郎: 日本細菌学雑誌, 9, 741, 昭29.
- 2) 越智勇一, 田嶋嘉雄, 村瀬信雄外23名(動物の腸内細菌委員会): 第39回日本獣医学会, 東京, 昭30.
- 3) 渡辺正太, 坂崎利一, 波岡茂郎: 日本細菌学雑誌10, 447, 1955.